

「京都発脱炭素ライフスタイル推進チーム～2050 京創ミーティング～」第3回会議
議事録

日 時 令和4年5月24日(火) 午後1時半～午後4時半

場 所 梅小路公園緑の館及びオンライン会議システム併用

出席者 (敬称略、五十音順、*印はオンライン参加)

岩崎達也*、大木和典、太田航平*、木原浩貴*、近藤令子*、鈴木靖文、津田郁太*、寺島美羽*、
中嶋直己、新川達郎、野村恭彦、前田展広、松添みつこ*、横江一徳、吉野章
(オブザーバー：伊住公一朗*、小坂洋平*、谷口実、福島慶三*)

欠席者 一ノ瀬メイ、一原雅子、笹岡隆甫、中馬一登、中村多伽、深尾昌峰、松本直人

次 第

- 1 開会
- 2 ワーキンググループ、市民ワークショップ等について
- 3 意見交換(2050年のビジョンとキャッチコピーについて)
- 4 閉会

意見交換での主なご意見

<2050年ビジョン修正案について>

- ・ ビジョンは、みんなが覚えていて一緒に作ったメンバーがそらんじて言えるようなもの。英語の使い方も中途半端。ミッションやビジョンは活動のなかで「これは正しいか？」と立ち返ったときに判断材料となるもの。キャッチコピーとビジョンは全く違うもの。本質的なビジョンが何か大切である
- ・ 最初のものから考えると洗練されてきた。ていねい・スマート・つながりは要素と一致している。豊かさを求めた場合に構成要素があるのかと思うと悪くはない。落としどころ、じっくりくるところが必要。それぞれの重なりが小さくなっているのもっとあってもいい。伝統や先進性を大事に、京都らしい脱炭素を目指すことがキーワードのひとつになる。

<グループディスカッション(ビジョンキャッチコピー)について>

○将来世代

- ・ 「未来の誰かのために」の方が分かりやすいのでは。自分の為というより利他の方が目指しやすい。
- ・ Z世代を動かさなければならない。映える街にしないと。
- ・ 京都の経営者は数世代先を考えて動いている。数世代先の為に脱炭素について目指していくことを京都の強みとして共有していくことはよい。自分の代で伸ばすより次の代を考える。次の世代のことを考えて決定していくことは、脱炭素にも共通する。
- ・ 千年先まで責任を持つと考えるのは難しい。まずは十年取り組み、それを100回繰り返せばいい。

○ポジティブさ・快適さ

- ・ 脱炭素にはマイナスイメージがある。「あなたにとっての脱炭素って何ですか？」というような問いが大事かもしれない。
- ・ ポジティブなメッセージが大事。これを見てくれる人が一体となってみんなで行き組んでいる意識ができればよい。「これやってください」、「あれやってください」と突き放すのではなく、一緒になって取り組みましょうという目線からのメッセージがよい。
- ・ 京都の伝統を楽しむことが環境につながる。自分が暮らしやすい、快適な生活に進めば。環境にやさしい生活をするのが楽しい、快適になればいい。

○社会の仕組みづくり

- ・ 「公共交通乗りましょう」「良いもの買いましょう」と呼びかけたところで、その呼びかけはここ 30 年でさんざんやられているわけで、もう一回呼びかけたところで何か大きく動くとは思えない。ここにおける行動は、本気で脱炭素社会を目指すとする、政策・まちづくりそのものが変わらざるを得ない。
- ・ 地域や暮らしのアップデートをしていこうというイメージ。身近なところを変えようではない方がよい。
- ・ 京都を外から見ていると、日本全国のなかでも、暮らしとの向き合い方や長く続いていくこと等、まち全体が、昨日今日のはじまったことではない日本のお手本みたいな部分がある。京都が世界のお手本になるという意識を持ちみんなで変えていこう、となればよい。

○豊かさ

- ・ 『環境』をより豊かなイメージにする。
- ・ 今、認識されている「豊かさ」とは違う、別の豊かさを伝えたら。
- ・ 市民にとって、高いがよいものを買う行動が、豊かさにつながるという価値観をつくる必要がある。

○自然

- ・ 四季をキーワードにするのはどうか。京都を日本を代表して四季を語っていい場所。
- ・ 京創ミーティングだけが主語になるのではなく、誰もが同じ方向を向いた目線のキャッチコピーがよい。
- ・ 鴨川いいなと思う。人工的な川で整備されているが、自然と調和しており、人々が自由にふるまえるコモンズ、鴨川のようなテクノロジーをつくりたい。

○やさしさ

- ・ カーボンニュートラルは急激な変化を和らげるテーマ。『DO YOU KYOTO?』のように正義のメッセージではなく、やさしいメッセージの方が伝わりやすい。
- ・ イラストを見たときに、やさしい感じの絵だと感じた。やさしいという言葉は好きかもしれない。環境にも、地球にも、からだにも、周りの人にもやさしい。いろんな場面で使える。やんわりもしているし共感できる言葉かなと思う。

○知識

- ・ 文化の良いところをかじって出すのは一つのアプローチの仕方だが、上澄みだけで全てを知っているような語り方は浅い。一朝一夕にすぐできるようなものではない。粗削りではなく、ゆっくりと時間をかけてやっていくことが大事。
- ・ よく知らないけどやってみようというのがある。ナッジなどの行動させる仕組みだけ作ってやりすぎると、よく知らないけどやっている人が増えてしまう。市民が最も脱炭素のことを知っている都市をつくる。

○価値観のギャップを繋ぐ

- ・ 結うくらしは昔から京都に住んでいる人たち。スマートな暮らしは新しい人。世代的なギャップがある。今議論している人たちは中間にいる少数の人で、どちらかにいる人が大半。それらを繋ぐ方針や施策がいる。
- ・ スマートな暮らしの人たちに対してメッセージを発していく場合、スマートな暮らしの人たちがほかの要素を包含していくことをコンセプトに。そういうサービスをこれから市民に提供していくとえば、イメージが湧く。

○その他

- ・ 壊れた服の補修、米をといだ水は貴重で花に水やりをするなど、昔は面倒なことが一周して未来に感じられる。
- ・ 京都の食べ物には漬物など蓄えるような食べ物が多い。京都らしい食べ物に例えてはどうか。
- ・ 脱炭素は新しい経済活動。これから付加価値の見込めるビジネス。それを日本的に落としていけるとよい。
- ・ 変わっていきましょう、今の生活を変えていきましょう、というメッセージが必要。
- ・ 脱炭素をしなければ、紡いでいく暮らしが削られ、京都自体がなくなっていく、と脱炭素を真剣に考えていかなければいけないことが伝わらないと、誰も行動しないのでは。

<個人のキャッチコピー案>

- ・ ふつうの夏（冬）、が来ますように
- ・ 四季を届ける街
- ・ 昔の不便が、未来になっていた
- ・ 鴨川にたたずむ。気持ちいいな と思う。
- ・ いつもの夏（冬）、が来ますように
- ・ 脱炭素するっ
- ・ 脱炭素、ってなんだろう？
- ・ あなたの 脱〇〇はなんですか？
- ・ 未来へ ～京都の暮らしをアップデート～
- ・ 『やさしい』京都をつくろう
- ・ 京都式で世界のお手本になろう
- ・ Enjoy KYOTO 地球に寄り添うもっといい暮らし

- ・ 田畑を次の世代につなぐ
- ・ 気が付けば京都 気が付けば脱炭素
- ・ 穏やかな鴨川を未来に残す事 #カーボンニュートラル
- ・ 京都が世界一の脱炭素意識を持つ市民集団になる。
- ・ 映える街つくろう ゼロカーボンチャレンジ！！

<イラスト>

- ・ 京都の歴史やわたしたちの住んでいる町を可視化できて嬉しい。デジタルと繋げる、数値モデルと一緒に見るとさらによい。京都は自然の中にあり、美しい山や川に囲まれた場所であることが誇り。観光客や府外の方にも活用していきたい。
- ・ 何に使って、どこで見られるかを考えて、どう目立たせるか。用途によっても変わると思う。
- ・ 引きで見ると、自然が増えて見えるが、寄りで見るとテクノロジーなどが緻密な絵となっている。
- ・ パズルにもできるかもしれない。

以上